

事業計画

事業名	地域まるごとで子育てを予防する連携システム事業
団体名	まつどでつながるプロジェクト運営協議会
事業担当課	子ども政策課

事業概要
核家族、経済的貧困、一人親、子・親の障がいを抱えた世帯など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援につながりづらい家庭が、官民の連携により必要なサポートにつながる可以实现するシステムを実現する。

松戸市の課題	<p>核家族化、経済的貧困世帯、ひとり親世帯の増加、子・親の障がいを抱えた世帯、外国人家庭など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援を必要とする家庭が増えている。</p> <p>(関連する課題の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松戸市における虐待の相談対応件数は約10年で約4倍に増加(2011年度…年間310件⇒2020年度…年間1317件)※子ども家庭相談課資料 ●小学生～中学生の子どもの約4人に1人が生活困難層(困窮層・周辺層) (小学5年生…困窮層7.3%・周辺層16.2%、中学2年生…困窮層8.9%・周辺層16.2%、ひとり親世帯にしぼると約半数が生活困難層)※2019年3月松戸市子育て世帯生活実態調査より引用 <p>上記のような多様化する家庭の課題がある一方で、公的な支援だけでは、問題の解決に向かわないケース、そもそも支援につながることができていないケースも多くある。社会から取りこぼされることなく、より良く子育てができる環境や暮らしを支えるためには、官民協働で地域の力を活かすことができる仕組みづくりが必要であると考えます。</p> <p>(2022年度の協働事業で実施した円卓会議で挙げた課題感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政、他団体との情報共有の難しさ <ul style="list-style-type: none"> ・学校や関係機関との情報交換が難しい。一方的に情報を提供するだけで、情報を開示してもらえない。 ・地域ごとの活動の情報が共有されていない。近い地域で集まって情報共有できると良い。 ●当事者と支援者のつながりづらさ <ul style="list-style-type: none"> ・本人から手があがらないと支援できない。情報を渡すことができない。 ・本人が困難さに気づいていない、自らつながりたくないケースがある。 <p>⇒どちらも特に行政は関係性を作りづらいという実情がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職として抱えているケースの件数が多く、気になっている方でも2、3か月に一度電話する程度になってしまっている。
事業の目的	<p>本事業では、子育て～子どもの成長を取り巻く負の連鎖の予防・緩和・解決に向けて、行政と民間団体、企業、地域住民が協力し合うことのできる仕組みづくりを目的とする。</p> <p>その中で特に、官民それぞれの支援者間の連携を促進するための地域円卓会議の推進と発展、および日常生活の中で子育てに寄り添うことができる市民サポーターの育成と地域で活躍できるネットワークづくりを目指す。</p>

	<p>●地域円卓会議の目的…主として対象年齢ごとに関わる行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題について共有し、対話する中で相互の連携に向けた関係づくり、および解決に向けて検討する。</p> <p>●市民サポーター育成の目的…資格を伴う専門職ではなく、一般市民の中で日常的に子育てを見守り、あたたかい声掛けができる市民サポーターを増やすことで、地域の網の目を細かくし、孤立を予防する。</p>
事業内容	<p>①子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政・福祉専門職・子育て支援 NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、それぞれが感じている現状の課題感の共有と子ども・子育て当事者が置き去りにされない議論を通じて、本質的な子育てのしやすさを目指した対話の場を行う。 ・個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース(資源)を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。具体的には円卓会議で挙げた論点の中から、実現していきたいテーマについて検討する場を別途設ける。 <p>(例) 2022 年度円卓会議より…妊娠期～2 歳において、特に所属のない子ども(無園児)と親が地域でつながりを作れる仕組みについて検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 円卓会議について、参加者は 20～30 名程度で年間 3 回を予定 ■ 取り上げるテーマの例(乳幼児期、児童期、青年期) ■ 2 年目ではさらに発展し、円卓会議で挙げた具体的なテーマについて、さらに踏み込んで検討する場づくり(検討ワークショップ)を行う。 <p>②地域の孤育てを予防する市民サポーター養成講座の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民サポーターについては、既存の支援の仕組みや最初につながるができる相談窓口を学び、当事者に必要な情報を伝えることができる地域人材を増やすことを目的とする。そのため既存にある民生委員や子育て支援員といったものとは異なり、肩書きを持つことを前提にはせず、現代の子育て事情などを理解して日常で寄り添うことができるような学びの場を実施する。講演会のみを受講した「市民サポーター」と、その中でさらに具体的に活動する意欲のある方を対象とした連続講座を受講した「応援隊」の 2 段階で担い手を広げていく。 ■ 1 年目のカリキュラム実施の成果を踏まえた上で、さらにより良い内容にブラッシュアップすると共に、講座を受講した方々が活躍できる実践の場とのマッチングに取り組む。 ■ 幅広く市民に知ってもらう機会を設けるために、初回は講演会という形式で間口を広げた企画を行い、その後連続講座につなげていく。 <p>①②に共通する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開催方法はコロナ禍の状況に応じてオンラインによる実施も想定することで、感染拡大時にも事業を推進する。 ■ 2 年目では実施により得られた成果を地域に共有することを目的として、外部のレポーターによる記録の可視化(グラレコ等)に取り組む。記録については、弊会のホームページや SNS などで発信していき、街で子ども・子育てを育むことへの関心を高めていく。

	年間予定	地域円卓会議	市民サポーター養成講座
	共通	実施体制：構成員 対象：官民それぞれで子育て支援に携わる方 場所：松戸駅周辺公共施設	実施体制：構成員 対象：子育て支援に関心のある一般の方 場所：松戸駅周辺公共施設
	4月	年間予定、テーマ検討	年間予定の検討
	6～7月	★第1回開催～ふりかえり	カリキュラムの見直し
	8月～9月	検討ワークショップ	講演会企画の検討
	10月	★第2回開催～ふりかえり	↓ チラシ作成～配布
	11月～12月	検討ワークショップ	講演会の実施～連続講座
	2月	★第3回開催～ふりかえり	実施のふりかえり
	3月	検討ワークショップ	
事業の目標	<p>○地域円卓会議の開催…原則として年3回の実施（延べ80名の参加者）を予定。またその後検討ワークショップを最低3回実施し、実践につながる事例を目指す。</p> <p>○市民サポーター講演会および養成講座の実施…子育てを街で支えることを幅広く周知するための講演会（年1回、50名の集客を目標とする）および、連続講座の受講生20名を目指す。</p>		
協働の必要性 (団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂や子どもたちの居場所づくりをしている民間の活動において、地域で出会うことができた困難を抱える家庭に対して、行政の支援が必要だと感じた際に、つなげる先が不明であったり、顔が見えていない関係で情報共有しづらいといった課題があるため、円卓会議のように開かれた場で支援者同士が対話できる機会が必要である。 ・協働事業で進めることによって、行政機関に参加してもらいやすくなることを期待する。また市民サポーターの募集にあたって、広報まつどへの掲載をはじめ、広く市民にPRできる連携を図っていきたい。 		
協働の必要性 (市)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の子育て支援施策においては、解決すべき課題が多様化、複雑化しており、さまざまな主体の参加と連携が必要となっている。現在、民間との連携において、お互いを知る場や情報共有する機会が少ないのが現状である。 ・社会全体で子育てを支えていく機運を高めていくためには、市民の方々の参加が必要となる。子どもと子育て家庭を温かく見守り、必要なときに声を掛け合うなど、子どもや子育て家庭に関心を持つ人を増やしていきたいと、考えている。 		
事業実施の役割分	<p>① 団体…民間ネットワークへ声掛け、会議や研修の設計と場づくり・運営</p> <p>② 担当課…庁内の各部署との橋渡しや調整、会場の確保、市民へのPR</p>		
今後の展望	<p>1年目…官民が信頼関係を築くことのできる場づくり、市民参加を促すための市民サポーター養成講座の構築 →本年度中に達成する見込み</p> <p>2年目…より開かれた場で多くの支援者が交流することができる場づくり、市民サポーター養成講座の展開（人数拡大）</p> <p>3年目…課題の共有から課題解決につなげる仕組みづくり、講座を受講した市民サポーターの活躍の場とのマッチング</p> <p>※3年をかけて、継続のための会員制度の構築、寄付サポーターの募集などを行っていく。</p>		

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 301,148	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 18,000	団体の会計より拠出
	参加費	¥ 20,000	養成講座参加費（1000円×20名）
	自己資金の合計額 (B)	¥ 38,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 334,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 372,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 170,000	地域円卓会議レポート謝礼 （円卓会議・講演会・養成講座） 5,000円×5名=25,000円 100,000円 外部講師謝礼（講演会） 15,000円×3回=45,000円 外部講師謝礼（連続講座）
	消耗品費	¥ 11,000	プリンター用インク 2,500円×2セット ワークショップ用付箋など 300円×20個
	印刷製本費	¥ 35,000	資料印刷費（円卓会議） 5円×10部×100セット チラシ印刷（養成講座） 5円×3,000枚 テキスト印刷（養成講座） 150円×100部
	委託料	¥ 130,000	デザイン費（養成講座チラシ・テキスト） 30,000円×1回 50,000円×2回
	使用料及び賃借料	¥ 10,000	会場使用料（養成講座） 500円×4時間×5回
	通信運搬費	¥ 16,000	郵便（定形外） 400円×2回×20名（テキスト送付）
	対象経費の合計 (E)	¥ 372,000	
（その他経費）			
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 372,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	円卓会議打合せ	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議準備	22,872 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議本番	34,308 円	3 人 × 4 h × 3 回 × 953 円
	検討ワークショップ準備	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	検討ワークショップ実施	17,154 円	3 人 × 2 h × 3 回 × 953 円
	円卓会議ふりかえり	25,731 円	3 人 × 3 h × 3 回 × 953 円
	養成講座打合せ	28,590 円	3 人 × 2 h × 5 回 × 953 円
	養成講座準備	38,120 円	2 人 × 4 h × 5 回 × 953 円
	養成講座本番	57,180 円	3 人 × 4 h × 5 回 × 953 円
	養成講座ふりかえり	42,885 円	3 人 × 3 h × 5 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
		人 × h × 回 × 953 円	
合 計 (A)	301,148 円		